

み、職場の雰囲気とを和やかにしているあたり人間工学・システム工学をとり入れ非常な努力が払われている様子がうかがわれた。同工場内には工業専門学校があり高率の従業員が対象で同校を卒業すると短大卒位の待遇を与えるそうである。現在は 320 名の生徒がいるとのことであつた。見学後茶菓子などのもてなしを受けたあと 16 時工場を辞して有益な今日の見学を終了した。

(沢井誠二)

第 5 班

三菱製鋼(株)東京製鋼所

前日の豪雨がうそのように晴れあがつた朝、9 時過ぎに経団連会館前を出発し、工事中でがたがたの大手町交差点から築地、勝鬨橋と走り抜けて、9 時半に到着。

平山専務、大木所長より会社概況、工場概要を説明していただいたあと、まず、板パネ、巻パネ、トーションバーなどを製造している東京パネ製作所を見学した。当製作所は同じ敷地内にある東京製鋼所から供給される圧延鋼材から各種のパネを生産している。最新工場らしくすっきりした設備配置の下で、板パネ目玉巻き自動化ライン自動焼入成型機その他独自の工夫を施した機械により、パネが生産される状況を見学した。

ついで、東京製鋼所を見学した。パネ製作所と合わせて 5 万坪の敷地内には建家が無駄なく並んでおり、さすがに都会の工場であることが伺われた。生産品目は、特殊鋼圧延棒鋼、中空鋼、特殊鍛造品などで、4 基のエル一式電気炉により年間約 31 万 t の生産を行なっている。

見学は、電気炉、分塊、棒鋼圧延、精製検査の順に行なわれた。特に建屋内で精製検査工場の占める割合がかなり広く、各種精製検査装置とあいまって品質面での熱意が伺われた。

見学後 45 分間にわたって熱心な質疑応答が行なわれ、予定をやや超過して 11 時 45 分に東京製鋼所を辞した。

川崎製鉄(株)千葉製鉄所

東雲から京葉道路に出て、途中の混雑をなんとかくぐりぬけ、1 時半に到着した。

中村工場長付からわが国の製鉄業の現況、千葉製鉄所の概要などについて、丁寧な説明を伺った後、分塊、熱延、高炉の順に見学した。特に高炉はうまく出鉄時にタイミングを合わせていただいた。

千葉製鉄所は、戦後建設された臨海大製鉄所のうちでは敷地に対する建家面積の割合が大きい印象を受け、イニシャルコストの節減に十分な考慮の払われていることが伺われ、単位面積当たりの生産量が非常に多く、トン当たりの建設費が国内外を通じて最低であるという中村工場長付のご説明もなるほどと思われた。現在でも粗鋼年産 600 万 t の大製鉄所であるが、このような合理的な考え方と、新技術開発体制、有利な立地条件などの下で、さらに発展が続けられている。

大型バスの夜間都心乗り入れ規則のため、見学を早めに切り上げて 3 時半に千葉製鉄所を辞し、5 時までに無事、交通規制の関門の小松川橋を渡った。暖かい春の一日の見学会であつた。

(田辺博一)

結晶成長国内会議開催のお知らせ

- | | |
|-----------|--|
| 主 催 | 日本結晶学会 |
| 協 賛 | 日本鉄鋼協会、ほか 8 学協会 |
| 1. 日 時 | 昭和 44 年 11 月 10 日 (月), 11 日 (火) |
| 2. 場 所 | 大阪大学産業科学研究所 |
| 3. 内 容 | (i) 招待講演
a) 吉田 錦 (東 大) Solidification と Substructure
b) 砂川一郎 (地質調査所) Morphology の問題
c) 大川章哉 (学 習 院) 結晶成長機構
d) 河井 徹 (東 工 大) 高分子の成長機構
(ii) 一般講演 (講演時間は 20 分以内、内容はこの会議の性格上、他の学会で発表されたものを含んでもかまいません。) |
| 4. 講演申込み | 期日 8 月 31 日
宛先 日本結晶学会 東京都文京区本郷郵便局内 私書箱 75 号
様式 官製ハガキに、題目、講演者所属学会、氏名、連絡先をご記入下さい。 |
| 5. 予稿締め切り | 9 月 30 日 (申込み者に、後日、予稿用原稿用紙をお送りします。) |
| 6. 参 加 費 | 500 円 (予定、講演予稿集代を含む)、会場で当日いただきます。
講演予稿集は非参加者にも実費でお分けしますので、9 月 30 日までにお申し込み下さい。 |